

情報活用能力の育成

富山県教育委員会県立学校課
指導主事 吉田壮志

富山県高等学校教育研究会情報部会の研究紀要第20号発行にあたり、会員の皆様におかれましては、日頃から本県情報教育の改善・充実に多大なご尽力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。また、学習指導要領に基づいた生徒の資質・能力の育成に向けて、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいただき、重ねて感謝申し上げます。

さて、学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を、情報科の学習を通して更に高めるようにすることとされています。この情報活用能力とは、「世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力」のことです。将来の予測が難しい現代社会において、未来を拓いていく生徒たちには、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくことがますます重要になってきており、そのために必要な資質・能力の一つとして情報活用能力が挙げられています。

「情報Ⅰ」には、プログラミングやシミュレーション、統計的な手法も含めたデータの活用など、これまでと比較してより高い専門性が求められる内容が盛り込まれましたが、これらについて学ぶのは、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題の発見・解決に役立てる力や情報社会に主体的に参画する態度を養うためです。令和4年11月に公表された大学入学共通テスト「情報」の試作問題においても、日常的な問題解決の場面においてプログラミングやデータの分析などの情報技術を活用する出題が多くあり、共通教科情報科の目標を踏まえたものとなっています。このため、情報技術等を活用した課題解決型学習を実践するなど、共通教科情報科の授業を充実させ、情報活用能力の育成に努めることが求められています。

富山県教育委員会としては、各種研修会や授業実践動画などの情報を適宜発信しております。また今年度、「富山ICT・DS教育支援事業」により富山大学や県立高校情報科教員と連携して『「情報Ⅰ」実践事例集－2024－』を作成し、県立学校などに配布いたしました。各学校では1名で教科を担当している先生方が多く、教科指導について協議する機会が非常に少ないため、これらを活用していただくとともに、本部会にて他教科以上に学校間で情報を共有しながら、県下一丸となって指導力の向上に努めていただきますよう、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、本部会のさらなる充実・発展と関係各位のご健勝、ご活躍をご祈念申しあげ、激励の言葉といたします。